

「東京クロニクル 1964-2020 オリンピックと東京をめぐる創像力の半世紀」展の実施報告について

- 1 開催期間：2020年6月9日（火）～8月10日（月・祝）
※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため会期を変更。
当初予定は4月25日（土）～6月28日（日）まで
- 2 観覧者数：2,051人／55日間

3 開催報告

町田市内におけるオリンピックの気運醸成を目的に、「オリンピック」と「東京」をキーワードとし、1964年の東京オリンピックから2度目の東京2020オリンピック・パラリンピックまでの半世紀の都市・東京の変遷を、「東京」をテーマとした文学作品や記録写真、ドキュメンタリー映像を通じて検証しました。

都市史としての「東京」と同時に、各人の内に刻まれた個人史としての「東京」をダブルイメージさせ、都市の創造性とそこに暮らす人々の知性を再認識する機会を提供できました。

(1) 関連事業

開催を予定したイベントはいずれも新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止しました。代わって、自宅にしながら展覧会の様子を楽しんでもらえるよう、企画展内容を紹介する動画を制作しYouTubeでの動画配信を行いました。

(2) 資料

茅ヶ崎市開高健記念館から開高健資料を約50点、はこだてフォトアーカイブスより春日昌昭写真約40点、写真家・渡辺眸氏より東大全共闘関連写真を約25点。また、町田ゆかりの作家・赤瀬川原平氏の作品約40点。都市出版株式会社より、雑誌『東京人』約400冊を借用。その他、市所有のオリンピックポスター、聖火トーチなどを合わせ、約200点余を展観しました。

(3) パブリシティ

- ・ art scape japan サイトに英文による企画展と文学館紹介が掲載されるなど、展覧会紹介サイト等によるネット上での情報拡散の有用性を認識することができました。
- ・ 本展広報物のデザインを手掛けた大日本タイポ組合による他施設でのワークショップや大学での授業における紹介など、関係者による口コミを通じた来場者がありました。

(4) 来館者アンケートから

- ・ 本展の特徴としては、市外からの来場者が 56%と比較的多く、また男性が 7 割を占めました。
- ・ 30～50 歳代の来場者が全体の 73%を占めました。
- ・ 「特に 60～70 年代の様子が興味深かった。かけがえのない一瞬が写っていて感傷的な気持ちになった。」「東京の昔の地図や首都東京の 4D の建物や物体が素晴らしかった。」「コンパクトながらセンスを感じる展示でとてもおもしろかった。オリンピックには興味がないがたのしめた。」といった感想が寄せられました。

